

---

「新約のきよめ」

第15章 たましいの安息

## それは地上で信仰者が経験できるもの

私たちのすべてが神と調和するとき、たましいは、疑いや恐れが届かないところにある乱されることのない安息の状態にはいる。

聖霊に満たされた生涯の多くの特質の中で、この感覚はもっとも顕著なもの。

この安息を死の河のかなたの天国のことと考える人もいるが、聖書はそれを河のこちら側、地上での信仰者の経験として示唆している。

ヘブル人への手紙によればこの安息は

- 一、自分のわざをやめることを意味する。
- 二、将来のわざわいを心配し恐れることからの安息である。
- 三、内面の戦いからの安息、あるいは内住の罪からの解放である。

# 一、たましいの安息は、自分のわざをやめることを意味する

それは、すべての種類の働きをやめることではない。

逆に熱心に燃やされ、すべてのわざが神を愛する愛からなされるようになる。

自分のわざをやめるとは、自分のたましいを救おうとするどのようなわざもやめるということ。

同様に、クリスチャン生涯を生きるための自分自身の努力をやめる。  
決心の生活ではなく、すべてをキリストにゆだねる。

勝利の秘訣は、自己制御でなく、キリスト制御であることを学ぶこと。

キリストなしに何かを得ようとすることをやめ、キリストのうちにすべてを持ち、キリストからすべてを受け取る。

## 二、将来のわざわいを心配し恐れることからの安息

心配は幸福の敵であり、信仰と両立しない。  
しかし心配しないとは、不注意であるという意味ではない。  
注意は十分に必要だが、それが重荷とならないように。主にゆだねる。

平静さの秘訣は信頼にある。

神さまのみこころは、常に最良。  
だから私たちの唯一の関心事は、「私は神のみこころのなかにいるか」ということ  
であるべき。みこころの中にいるなら、すべては善い。

力は前もって約束されているものではなく、その日の必要に応じて、  
日々与えられるもの。

だから起こってもいないことを想像して悩み苦しむことをやめる。  
一日はその時に、一事はその時に、ということが心配から解放される秘訣。  
私たちの神は、明日も生きておられる。

### 三、内面の戦いからの安息、または内住の罪からの解放

安息とは、闘争や争いをやめること。

肉、内住の罪、または腐敗性との戦いをやめ、キリストがライバルなしに支配してくださるときに、信仰の安息が訪れる。

私たちの古い人は、単に押さえつけておくのではなく、まったく死ぬまで十字架につけるべきである。キリストの血はきよめる効果がある。

しかしそれは、私たちの自然な欲望や好み、愛情などがなくなることではない。それらから罪を取り去って、正しく適切に用いられ、常に神の栄光のために用いられるようになることが神のご計画。

すべての熱望が神に向かい、神に仕える奉仕が楽しみ、喜びとなる。